

# 図書館だより



No. 8

平成 28 年 12 月 22 日

ついこの間、初詣に出かけたような気がしますが、今年も残すところあと僅かとなりました。年末年始には、みんなで集まって食事をする機会が増えますが、大勢で賑やかに食べると、いつもにも増して食事がおいしく感じられますよね。今年1年を振り返り、思い出話に花を咲かせながら、みんなで楽しい食卓を囲んでください。

さて、長い蔵書点検が無事に終わり、図書館は今日から開館します。約2週間、本を借りられず、ウズウズしていたみなさん、今日からまた存分に読書を楽しんでください。冬期貸出期間中の今は、1人5冊まで借りることができます。返却日は1月17日(火)です。新着本もたくさん入っていますので、冬休みに読む本を吟味しに図書館へ足を運んでください。図書館カレンダーでもお知らせしてあるように年末は27日(火)まで開館しています。また、新年は1月10日(火)より開館します。

それではみなさん、よいお年を！！

\*パーティー料理はこれで決まりっ

596-マ『ホットプレート&たこ焼き器ラクうま活用レシピ』 松尾 絢子 || 著 タツミムック

みんなで熱々をシェアできるホットプレートやたこ焼き器は、パーティーの強い味方。定番とも言えるお好み焼きや焼きそば、パエリアはもちろん、この本を使えば、ホットプレートでチーズフォンデュやペンネ、ドリアだって作れちゃいます。たこ焼き器も負けてはいません。ひとくちサイズのアメリカンドックやコロケ、キッシュなど、色々なアレンジ料理を楽しめます。さらには、ホットプレートを使ったスイーツレシピも載っているのが心憎いところ。これはもう、パーティーの締めくくりに、別腹で甘いスイーツもいただいてしまうかありません！

\*箱根駅伝にはドラマがある

B782-イ『箱根駅伝 ナイン・ストーリーズ』 生島 淳 || 著 文藝春秋

新年、日本中が夢中で応援する箱根駅伝。嬉し涙あり、悔し涙あり、感動ありの二日間に毎年、目が離せない人も多いのではないのでしょうか。区間を走る選手の思い、チームを育てる監督の思い、チームを支えるマネージャーの思い、それぞれの心の中に、それぞれの箱根駅伝があります。この本から見えるのは、華やかな栄光の裏に存在する努力の積み重ねやいくつもの挫折を乗り越えた姿です。過去の箱根駅伝を振り返りながら読むのもおもしろいし、2017年の箱根駅伝を見る前に読めば、より応援に力が入ることでしょう。



## 2016年これを読まなきゃ終われない

ボブ・ディラン氏のノーベル文学賞受賞や、現役コンビニアルバイトの村田沙耶香さんの『コンビニ人間』が第155回芥川賞を受賞し話題となった2016年。秋草の図書館では本屋大賞を受賞した宮下奈都さんの『羊と鋼の森』が生徒にも先生にも人気の本でしたし、2位を受賞した住野よるさんの『君の隣に食べたい』も予約待ちの状態が続いていました。そんな中、みなさんはどんな本と出会いましたか。

ここでは、今年最後の締めくくりにみなさんにおすすめしたい3冊を紹介します。

377-ニ『最後の秘境 東京藝大』 二宮 敦人 || 著 新潮社 ◆推薦者 今井勸先生◆

日本で最難関の大学は東京大学理Ⅲ。この理Ⅲの生徒を世間では「天才たちの集団」と呼ぶ。実は東京藝大もまた最難関の大学であることを知っている人は少ない。しかも、東京藝大の学生は一人一人がとてつもなく個性的であり、通常は有名企業に就職した生徒が「勝ち組」になるのだが、東京藝大では真逆。就職しないで、ひたすら芸術の道を追いつけることが「勝ち組」になる。この本は、藝大の生徒である著書の奥さんを筆頭に数十名の藝大生のエピソードについて書かれているが、とにかく面白い。約2時間で読み終わったが、久しぶりにストレスゼロ、爽快感100%の本に出会った。面白い以外の言葉が見当たらない本である。

913.6-ム『コンビニ人間』 村田 沙耶香 || 著 文藝春秋 ◆推薦者 鈴木信晃先生◆

【先入観】…初めて知ったことによって作り上げられた固定的な観念や見解。それが自由な思想を妨げる場合にいう。(『広辞苑-第五版-』)

主に初対面において「人は見た目で判断される」という言葉があるが、ある程度相手を知った上でも見た目だけで判断していないだろうか。

「いい歳してアルバイトって…」「この歳まで交際相手がいないって…」これらはあくまで【先入観】による考えに過ぎない。そのような【先入観】にとらわれた社会の中でもがき苦しむ主人公の心の拠り所がアルバイト先のコンビニであった。しかし、そのコンビニにも【先入観】の波が押し寄せてきて…。

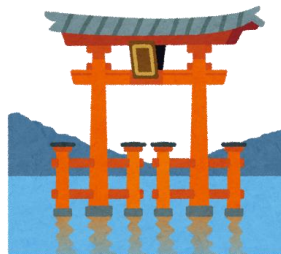
913.6-サ『明るい夜に出かけて』 佐藤 多佳子 || 著 ◆推薦者 今井司書◆

主人公の彼は、とあることをきっかけに、ふさぎこんでしまい、大学を休学中。期間限定の一人暮らしをしながら、コンビニでアルバイトをしている。唯一の楽しみは、はがき職人をやめた後も聴き続けている深夜のラジオ番組。パーソナリティーたちの巧みな話術に引き込まれ、ラジオを聴いている時だけは心が弾む。しかし、現実に戻れば、そこにいるのは人に触れられることにひどく拒絶反応が起こってしまう自分。うまくできない人付き合い。どうしたらよいのかも、わからない。そんな彼が少しずつ変わっていくきっかけとなったもの。ラジオがくれたひとりの少女との出会いだった。

アンテナの向きを気にしながらラジオ番組を聴いていた昔を懐かしく思い出した本でした。

## 🇯🇵 ニッポン再発見 🇯🇵

ニッポン再発見、第7回は本州ラストの中国地方（鳥取・島根・岡山・広島・山口）の5県です。日本最大級の海岸砂丘 鳥取砂丘がある他、今年スターバックスがオープンした事でも話題になった鳥取。来年、世界遺産に登録されてから10周年となる石見銀山と出雲大社が有名な島根県。日本三大庭園の後樂園や日本三大稲荷の最上稲荷がある岡山県。厳島神社や原爆ドームという2つの世界遺産を持ち、今年、広島東洋カープがセ・リーグで優勝し湧き立った広島。本州の最西端で三方を海に囲まれ、エメラルドグリーンの海を渡る角島大橋や本州と九州を結ぶ世界有数の規模の吊り橋 関門橋が架かる山口県。出雲大社や厳島神社のほか、吉備津神社(岡山)、白兔神社(鳥取)、秋芳洞(山口)などもパワースポットとしておすすめです。



### \*あなたの知らない桃太郎

388-オ 『桃太郎は今も元気だ』 おかやま桃太郎研究会 || 編

岡山市デジタルミュージアム

だれもが知っている桃太郎のおはなしには、全国各地に色々なバージョンやゆかりとされる土地が存在します。その中でも有力とされる、岡山県。桃太郎と同じような筋立ての“温羅伝説”があり、桃の産地で吉備団子が名物とくれば、多くの人が納得でしょう。鬼とされる温羅とそれを打ち破った吉備津彦命ゆかりの神社が吉備津神社で、そこにあるお釜殿には温羅の首がうめられているそうです。他にも吉備津彦神社や矢喰い宮、鯉喰神社、鬼ノ城など歴史のロマンを感じながら観光できる場所があります。なぜお供は犬・猿・キジなのか、吉備団子は1つずつか半分ずつなのか、宝は何を意味していたのか、この機会に桃太郎の裏に隠された謎について考えてみませんか？

### \*今、鳥取がすごい

606-七 『小さくても勝てる』 平井 伸治 || 著 中央公論新社

「スタバはないけど、日本一のスナバはある」鳥取県の知事である平井伸治氏のこのフレーズには、みなさんも聞き覚えがあるのではないのでしょうか。この発言もそうでしたが、自ら積極的に表舞台に立ち、スタバやポケモンGOなど、話題を味方につけたユニークな戦略で鳥取を全国に宣伝する姿が印象的な平井知事。しかし、平井知事のすごいところはそれだけではありません。鳥取のボトルネックである人口の少なさ(鳥取は日本で一番人口が少ないのです)を改善するため、移住体験や就業環境の充実、子育て環境の向上などに取り組み、移住者の増加と県外への流出を防ぐことに成功。さらには県庁改革により財政再建にも成功。その功績を読んでいると、活気づく鳥取には住みたくなる、住み続けたくなる魅力がたくさんあると感ぜられます。

### \*広島の生んだ怪童

B796-オ 『聖の青春』 大崎 善生 || 著 角川書店

幼くしてネフローゼという肝臓の病気により、安静を余儀なくされた村山聖が出会ったもの、それは将棋だった。持ち前の集中力で将棋の本を読みふけり、瞬間に腕を上げていく。「もっと、もっと強くなりたい」その思いはやがて「プロになりたい」という夢へと変わる。そして、中学1年だった聖は、「まだ早い」と止める家族・親戚を強い意志で説き伏せ、広島から大阪へと渡る。師との運命的な出会い、羽生善治というライバルとの出会い、家族の支え、様々なものを励みとして、将棋界を駆け上がっていく。しかし、自信と成功をつかみかけようとする聖にさらなる病魔が襲うのだった。

信念を持ち、持てる力の全てを注ぎ、ひたすらに将棋へ打ち込んだ一人の青年の闘いの記録。鬼気迫るその姿が心に焼きつきます。

## 🍲 図書館司書の「今月はこの本を読みました」 🍲

今月は『クックパッドのおいしい厳選！ スープレシピ』(596-ク 新星出版社)を片手に色々なスープを作って、あったか生活を送っています。『きのこのクリームスープ』、『団子入りお吸いもの』、『ポテトポタージュ』を作ったほか、『卵入りみそ汁』を参考に上手な落とし玉子の作り方を取得しました。クックパッドのレシピは簡単で、なおかつ、おいしい。どれを作っても、「こんなにおいしいスープが私にも作れるなんて！」と感動しました。『団子入りお吸いもの』の団子は、おからで作るものだったのですが、モチモチでとてもおいしかったです。おからだから、ヘルシーなのも嬉しいところ。和・洋・中と種類も豊富なので、その日の気分に合わせてスープを作ることができました。次は「牛すね肉のビーフシチュー」と「けんちん汁」に挑戦したいと思っています。この本をきっかけに今月は料理に気合が入り、充実の自炊生活を送っています。クックパッドのレシピ本は他にもたくさんあるので、みなさんもぜひ使ってみてください。【今井】

『X-01 エックス・ゼロワン 巻』(913.6-7 あさのあつこ)を読みました。

絶対面白いはず！！だってあの『NO.6』の作者が書いた新作YAですもの。紫苑やねずみ(←人名です)のように魅力的な登場人物たちが命がけで戦い生き抜き友情を育む、ワクワクするような物語にまた出会える期待満々で読んでみました。意外なことに『X-01』の主人公は少女たちでした。物語は、2つの世界が同時に進行し、それぞれの世界の少女、ラタと由宇は困難に立ち向かっています。1巻ではまだまだ壮大な世界観すべては見通せませんし、二人の少女の関係もまだ分かりません。でも、もう惹き込まれてしまします。あさのさんによると、「戦う選択肢しかない状況で、人は結びつくこと、信じること、想うことで、人の世を変えていけるのか。『NO.6』という作品を書き終えた後もずっと引きずっていたこの問いに、わたしなりの答えを見出したい。その足掻きの一歩が、『X-01』です」だそうです。ああ、早く2巻を…【鈴木】

